

恵みと真理のニュース



2014年2月の二次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養5洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



[証]

私の喜び、私の希望になる主を賛美します。

私は篤実に神様を信じる母の懐で育ちました。教会で教師として熱心に奉仕しながら休まずに祈る母の影響で私は子供の頃から神様を愛し神様の愛をたくさん受けながら成長することができました。神様は私に音楽の賜物を与えてくださって小学校を通うときから教会学校で伴奏者として奉仕しました。それでもっと教会に行く楽しみと信仰で満ちた生活をしました。しかし、思春期の時期に友達をはじめ周りの人々の関係の葛藤と学業のストレスで心が不安定になり教会とますます遠くなり、伴奏者の奉仕も以前のように楽しくなかったです。ある日から教会に行っても形式的に礼拝を捧げました。恵みを求める心もなく上の方で説教を聴き奉仕することも疎かにしました。高校3年生になっては入試に対する重圧感と望む成績に及ばない結果などで性格も否定的に変わって生きる喜びもなくなりました。母はこんな私を叱らなく相変わらず姿で夜明けから起き私のため祈り私が変わることを待ってくれました。いつも神様を畏れ頼り礼拝中心の生活を母の姿を通して自分を振り返ってみて深く反省するようになりました。雪が降っても雨が降ってもいつも私の手を握って教会に導き御言葉と祈りで私を育ててくだ

さった母の心を痛めたことがとても後悔になりました。慈しみ深い神様の前に出て今までの生活を悔い改め切ない心で赦しと慈しみを求める祈りを捧げました。大変な時こそもっと神様に委ね願ひ忍耐しながら希望を持たなければならないのに信仰がない人のように行なった間違いを神様の前で告白し弱い私を助けてくださることを願いました。神様は私を暖かい懐で抱いて赦してくださり限りない慈しみと愛を与えてくださいました。これから私の全のことを神様に委ね受験生ですが礼拝には休まないように努力し祈りながら残った時間入試準備に最善をつくしました。その結果私が願った学校と学科に進学しました。母は神様が助けて導いてくださったからだと言ひ私を祝福してくれました。私と母は神様に栄光を捧げました。願っていた大学生になりきれいなキャンパスを歩くたびに神様の驚くほどの権能と知恵と感動になり神様に感謝する心ももっと深くなりました。大学に入っても何回試験が来ました。新しい人々に出会うことに対する恐ろしいと大学生活の中でお酒と世の文化に接しなければならない状況など心配になりました。それで私は良い友達をつきあうことと 世俗的なものに染まることなく特にお酒を飲まないことを神様に祈り

ました。神様はこんな私の切なさを知り入学する前に予備大学というプログラムに参加し神様をよく信じる友達を先に会えるように導いてくださいました。今までその友達と仲良く過ごしながら共に誘惑と迫害を勝つことができました。友達を通して良い周りの人々と交わることができました。そしてオリエンテーションに参加したとき、偶然に足を怪我して先輩達が強要する飲み会を避けることができました。このように神様は私の祈りを聞いてくださり時ことに精密に助けてくださり守ってくださる恵みを受け私の信仰はもっと強くなることができました。神様は私をまた教会学校の幼年部の教師と聖歌隊の伴奏者で教会を仕え献身する神霊な喜びと満足を与えてくださいました。真実な母の祈りと愛の中で育ててくださり思春期の葛藤と試験を良く乗り越えるように導いてくださいました。また、大学進学してもっと大きい夢を抱いて熱心に勉強するようにさせ、今日も忠実に信じるように導く神様に感謝を捧げます。私の人生に溢れる恵みと愛を与えて下さる神様 “私の喜び、私の希望になる主を賛美しながら全ての栄光を主に捧げます。ハレルヤ！”



[信仰コラム]

神様がどこにいらっしゃるのか。

“...どうして異邦人で彼らの神様がどこにあるのか話すことにしますかたえよ”(ヨエル 2:17)

“神様がどこにいらっしゃるのか”この話は言う人の信仰は言う理由によって、非常に多様な意味を持つようになります。これを分析すると、4つのタイプに分けることができます。第一に、この話は不信者たちが神様の存在を認めないからです。“神様が存在するという証拠がどこにあるのか?”ということです。この部分を答えることは難しくありません。神様の存在について神様が建てた世界と人類の歴史と人間の本性という領域からいくつかの証拠を提示することができます。一つは、神様が建てた万物がその証拠です。宇宙の万物は偶然に存在することができないという圧倒的な証拠がたくさんあります。宇宙万物の大きさと多様性そして秩序と調和と美しさを私たちが知れば知るほど神秘的な世界です。自然界には人が変えたり、なくしたりできないルールがあります。全てのことを考えると、創造主なる神の存在を信じるのが偶然を信じることより理性的です。二つは、人類の歴史が神様がいらっしゃることを立

証することです。人類の歴史をさかのぼれば、結局、アダムとハワに至るようになります。聖書にはこのような族譜を記録しておきました。そして歴史の中で国の興亡盛衰を見れば、神様が歴史の主権者として関与したという証拠があります。その興亡盛衰が預言者の話しどおりになったことを聖書で確認することができます。三つは、人間の本性が神様がいらっしゃることを立証することです。人間は良心という倫理的な本性を持っています。人は法を作ってそれを守って義務と責任を果たします。人のこのような本性が審判者の神様がいらっしゃることを証拠とします。四つは、人間にある宗教性が神様がいらっしゃることを立証することです。人以外にはどんな動物も宗教を持っていません。神は人だけを神様の姿や形通りに作って魂を持った存在で作って人だけが永遠に生きていますし、新しい概念を持って宗教行為をします。第二に、この話は不信者たちが苦境に直面した聖徒を向かってあざ笑う声です。こんな声を聞くと、恥ずかしさを感じて意気消沈し、落胆する 聖徒がいます。本気の信者は自分が苦しい経験についてその痛みより不信者たちが“君の神様があるか”しながら神様を揶揄することを聞いたなら心苦しく思っています。

第三に、この話は信頼が弱くなった信者が神様に不満を吐露して神様の意味を疑わせる声です。直面した心の欠乏と苦痛によって“神様がどこにあるのか”という不満を吐露する信者がいます。広野を行進するイスラエルの民がそうしました。また、悪人たちの繁栄と亨通を見て神様の公義を疑って“神様がどこにいらっしゃるのか?”という懐疑的な態度をとった信者もいました。しかし、贖罪することを受けて救援を得てその喜びで礼拝しました。福音を伝える天国を思慕していることが信仰の主な理由でした。ある聖徒はどんな立場でも神様に対する懐疑的な感情が生まれません。第四に、この話は聖徒が神様に助けを切望する訴えです。苦境に立たされたり、障害にあったとき、神様の助けを求める声です。神様に権能と助けたことを信じている話です。皆さんは自分の力と知恵だけに依存せず、すべての仕事に神様の能力を求めて手伝うことを願いつつエリシャのように“神様はどこにいらっしゃいますか?”と話しように願います。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

五人の行為で得るようになる教訓



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

スリヤ国の軍勢の長 ナアマンは知略と勇猛がすぐれた将軍でした。彼は卓越な戦術と戦略で国の威勢を伸びさせました。権勢と地位、名声と財物をみんな持っている彼は一つ不足なのがなかったです。ところである日から彼の顔に暗い影がおおわれ始めました。その理由が何ですか？聖書にこんなに記録されています。“ナアマンは 大勇士であったが、らい病をわずらっていた。” 今日医学の発展で治療薬が開発されたがその昔には初めからいやす方途がなかったです。ナアマン将軍は病気を治して見ようといういろいろな方法をすべて捜したが無駄で日増しに病状は悪くなって行きました。悲嘆と絶望に処したナアマン将軍に思いがけない朗報が伝わりました。ナアマン将軍の家にはナアマンの妻に付き添う下女がいました。スリヤ 軍隊がイスラエルを攻めこんだ時捕らわれて来た少女でした。この下女が自分の女主人に言うのを “御主人がサマリヤにいる預言者と共におられたらよかったですように。彼はそのらい病をいやしたことでしょう。” しました。妻からこの言葉を伝えて聞いたナアマンはイスラエルの預言者エリシャを尋ねることに決心しました。ナアマン将軍は王に行って自分意思を表明して承諾して下さるのを要請しました。王はこころよく承諾してイスラエル王に送る親書まで書いてくれました。ナアマン将軍は王の親書とともに銀十タラントと、金六千シケルと、晴れ着十着を携えてイスラエル国に行きました。イスラエル王はナアマン将軍からスリヤ王の親書を受けて読んでからは衣を裂いて 彼は言うのを “どうしてこの人は、らい病人をわたしにつかわして、それをいやせと言うのか。あなたがたは、彼がわたしに争いをしかけているのを知って警戒するがよい。” と言いました。このうわさを聞いたエリシャ預言者は王に人を送ってナアマン将軍を自分に送ってくれなさいと言いました。そしてナアマン将軍はエリシャ預言者が住む所に行きエリシャの家の入口に至りました。エリシャは彼に使者を送って言うことに “「あなたはヨルダンへ行って七たび身を洗いなさい。そうすれば、あなたの肉はもとにかえって清くなるでしょう。」” しました。その言葉を聞いたナアマン将軍は怒りがこみ上げて引き返しながらいきました。“ナアマンは怒って去り、そして言った、「わたしは、彼がきくとわたしのもとに出てきて立ち、その神、主の名を呼んで、その箇所の上に手を動かして、らい病をいやすのだろうと思った ダマスコの川アバナとパルバルはイスラエルのすべての川水にまさるではないか。わたしはこれらの川に身を洗って清まることができないのであろうか」。こうして彼は身をめぐらし、怒って去った。” その時、しもべたちは彼に近よって言った、「わが父よ、預言者があなたに、何か大きな事をせよと命じても、あなたはそれをなさらなかったでしょうか。

まして彼はあなたに『身を洗って清くなれ』と言うだけではありませんか」。そこでナアマンは下って行って、神の人の言葉のように七たびヨルダンに身を浸すと、その肉がもとにかえって幼な子の肉のようになり、清くなった。今日はこの事件記録に登場する人物たちの言葉と行動をよく見ることで神霊なメッセージを得るようになります。

第一は、ナアマン将軍の妻に付き添う下女の言行をよく見ます。

ナアマン将軍の妻に付き添う下女は戦争のとりこでつかまって来た少女でした。ところでこの少女の卓越な点は自分の力では仕方ない状況を収容して現実に適応したというのです。この少女がその主人ナアマン将軍の苦痛と問題に対して関心を持ってお手助けになろうと自発的に出たことは自分が処した状況をよく消化して乗り越えたからです。クリスチャンはたとえ自分が難しい立場にあってもこの少女のように他人に大きい恵みをかけることができます。パウロはクリスチャンの逆説的な生に対して言うのを “悲しんでいるようであるが、常に喜んでおり、貧しいようであるが、多くの人を富ませ、何も持たないようであるが、すべての物を持っている。” (コリント人への第二の手紙 6:10) しました。

二番目は、ナアマン将軍の妻の言行をよく見ます。

ナアマンの妻は付き添う下女からイスラエルの預言者に関して聞くようになりしました。聖書には下女が彼の女主人に言った言葉が簡単に記録されているものが実際には下女に聞いた内容はずっと多かったです。ナアマンの妻はその下女に聞いた消息を透かさずご主人に知らせました。ご主人がその消息を聞いてエリシャ預言者に行こうと決断するように説得しました。説得力は伝える人の人格と関連があり伝える人の態度とも関連があります。熱情と真さがなければなりません。ナアマン将軍の妻が死ぬ病気にかかった夫に対していくら心こがれる心を持ったのかはもっと言うまでもないです。だから下女から聞くようになった嬉しい消息に対して最大限詳らかに知らせようと思ったはずですが、そしてその消息を持って夫に真に説得力あるように言ったはずですが、このような努力が結果を結ぶようになったのです。

三番目は、イスラエル王の言行をよく見ます。

イスラエル王はスリヤ王の手紙を読んで大きく誤解しました。

“「わたしは殺したり、生かしたりすることのできる神であろうか。どうしてこの人は、らい病人をわたしにつかわして、それをいやせと言うのか。あなたがたは、彼がわたしに争いをしかけているのを知って警戒するがよい。」” と言いました。事実はイスラエル王はスリヤ王に好意を施してくれることができる良い機会に会ったのです。ところでイスラエル王は信仰がなかったからエリシャ預言者を思うことができなかったです。私たちがどんな問題を当面するようになる時懸念と不安を受け入れて気落ちしたらこれは信仰不足のせいです。

皆さんは問題を会った時その問題を神様の言葉の中に持ち行ってください。祈禱として神様に提示してください。そして問題が返って有益な機会を提供していることを分かるように願います。

四番目は、ナアマン将軍のしもべの言行をよく見ます。

ナアマン将軍は貴い贈り物を持ってしもべたちを従えてエリシャの家の門の前に立ってエリシャが出るのを待ちました。ところでエリシャは顔も出さずに使者を送って指示するのを “あなたはヨルダンへ行って七たび身を洗いなさい。そうすれば、あなたの肉はもとにかえって清くなるでしょう。” しました。この話を聞いてナアマンは激怒して直ちにダメセックに帰ろうとしました。“その時、しもべたちは彼に近よって言った、「わが父よ、預言者があなたに、何か大きな事をせよと命じても、あなたはそれをなさらなかったでしょうか。その預言者がもっと難しい事を将軍にさせたらその仕事を確かにしたはずですが、ところで彼がやっとヨルダン川で身を洗いなさいと言うことを拒否するわけが何ですか？」” と言うとナアマン将軍が心を思い直しました。忠告する人は忠告を聞くようになる人と自分の関係を斟酌して適切な態度を取らなければなりません。ナアマン将軍のしもべは将軍の心をなぐさめるため 無知と愚かさを暴き出すことのように聞こえないで全く将軍のためなことで聞き分けるように言いました。皆さんも賢く助言するとか忠告する才能を神様に求めてください。

五番目は、ナアマン将軍の言行をよく見ます。

結局ナアマン将軍は自分の考えと主張を神様の言葉に屈服させてダメセックの川たちよりヨルダン川を選びました。神様の言葉は批評の対象ではありません。感謝する心とうれしい心で信じて従順しなければなりません。ナアマン将軍は補佐官と軍卒たちが見守る中でヨルダン川の水の中に入って行きました。彼は一度水に入った出て病気にかかったかよく見たら病気がそのままあります。二度、三度、四度、五回、六回水の中に入って行った出ました。それでも病気は少しも治らなかったです。しかし彼は忍耐力を持って従順して七番目水の中に入って行ってから出ました。この時驚きべきが起こりました。彼の肌が子供の肌のように変化されたのです。いよいよきれいに癒されたのです。ナアマン将軍は喜びがあふれてその道にエリシャ預言者に駆け付けました。彼はエリシャ預言者の前に謙遜な姿勢に告白するのを “彼はすべての従者を連れて神の人のもとに帰ってきて、その前に立って言った、「わたしは今、イスラエルのほか、全地のどこにも神のおられないことを知りました。それゆえ、どうぞ、しもべの贈り物を受けてください。」” (列王紀下 5:15) しました。

ナアマン将軍が不治病を治療するまでの事件記録に多様な人物たちが登場しました。今日は彼らの言行で得るようになる教訓をよく見ました。その教訓たちを皆さんの信仰生活に皆適用してください。そしてますます神霊な体験と信仰が加えられるように願います。